

# 報恩感謝

ありだ  
有田市長(和歌山県) 望月良男  
Yoshio Mochizuki



## みかんの里 有田市

有田市は、関西国際空港から車で約1時間の和歌山県北西部に位置しています。人口は約2万8000人、面積は36・89km<sup>2</sup>で、市の中央を世界遺産・高野山を源流とする有田川が流れ、紀伊水道へと注いでいます。有田川左岸の山頂には「みかん海道」と名付けた道が走り、湯浅湾の美しい自然の景観を眺めながら、ハイキングやドライブを楽しむことができます。

有田市の農業生産の90%以上は柑橘類で、その多くが「有田みかん」の名で全国的にも有名な温州みかんです。毎年秋から冬にかけて最盛期を迎え、急峻な石積み段々畑一面が黄金色に染まった壮大な景色を見ることが出来ます。400年以上の歴史と伝統を誇り、本市の特産品として非常に人気の高い有田みかんですが、さらなる需要の拡大とブランドイメージの確立を図るため、平成22年より、厳正な官能審査によって高品質なみかんを認定・管理する「有田市原産地呼称管理制度」をスタートさせています。今後も多くの消費者の方々に、本当に美味しいみかんを食べていただくことで、その魅力を世界中に発信していきたいと考えています。

さらに、大阪湾からの内海系水と、南

からの黒潮分支流の影響を受けるため、海の幸も豊富です。中でも日本一の漁獲量を誇る太刀魚は、古くから「たっちょ」の愛称で親しまれ、骨ごと練り合わせた天ぷら「ほねく」を使った「ほねく丼」や、うな重の鰻が太刀魚になった「たち重」などの新名物も誕生し、評判を呼んでいます。

そのほかにも、熊野への参詣道「紀伊路」や、徳川御三家紀州の殿様が愛でた武家屋敷、透明度が高く美しいビーチがある無人島「地ノ島」など、数多くの魅力を備えています。

本市は昭和31年に市制を施行し、昨年60周年を迎えました。60年の歴史の中で、先人の方々の懸命の努力により、本市の美しい自然や産業、伝統文化はぐくまれてきたことに対し、改めて尊敬と感謝の念を感じずにはいられません。今後、これらの魅力を独自の地域資源として磨き上げ、さらに発展させていくことで、先人の目指した豊かな地域づくりを進めてまいりたいと考えています。

## 私と本

私の趣味の一つが読書です。本を読むことは昔から好きで、今も限られた時間の中でできるだけたくさん本を読みたいと思っています。選ぶ本のジャンルは



「みかん官能審査会」での筆者

特に絞っておらず、その時々で気になった本を手にとって読むようにしています。仕事を終えた後、自宅で読書の時間をとることが多く、子どもたちが勉強をしている傍らで読むこともあります。そうすると、読書をする一方で、子どもたちと勉強の話や学校の話が広がり、充実した時間を過ごすことができます。また、就寝前の読書で頭の中をリフレッシュさせることによって、一日の区切りをつけることもできるので、とても大切にしている時間です。

平成26年より、本市のふるさと応援寄付の記念品の一つに、「有田市長おすすめ本」という項目を加えています。これは、人から本を贈られることは嬉しいな、というシンプルな思いから始めた記念品ですが、申し込みをさせていただいた方のメッセージやコメントなどから、どんな本を贈ると喜んでもらえるかを想像して本を選ぶ作業はとても楽しいものです。当初想定していたよりも申し込みや反響が多く、また、送った後にお礼のメッセージや感想をいただくこともあり、改めて本



おすすめ本について語る筆者

のもつ魅力を感じています。

また、本市では今年の7月末に、蔵書数と閲覧スペースを大幅に充実させた新図書館をオープンさせました。新図書館は、ギャラリースペースとしても利用できるホワイエなどとともに、本格的なクラシック音楽にも対応できる市民ホールに併設しており、さまざまな用途で利用可能な複合施設となっています。地域の交流の場として気軽に利用していただくことによって、本に触れる機会を積極的に提供し、本の面白さや読書の喜びを伝えられる図書館にしていきたいと考えています。

### 出会いへの感謝

市長就任から9年目を迎え、今改めて感じることは、たくさんのお出会いに対する感謝の気持ちです。少し立ち止まって考えなければならぬときや、新しいアイデアを模索しているとき、いつも出会いから刺激を受け、成長させてもらっています。「人は人によって磨かれる」という言葉のとおり、人は他者との関わりの中でのみ、自分の未熟さや、大切にしなければならぬことに気付くことができるのだと思います。

私はいつも市役所の職員に対し、それぞれの目標に向かってともに仕事をしていく仲間と出会った「縁」に、どんな意味



7月末にオープンした新図書館

があるのかを考えてみてほしいと話しています。他を認め合いながら、それぞれの本領を発揮し、市役所で働いていることにプライドをもてる集団でありたいと思うからです。そして、目の前にある課題に向き合い、精一杯仕事を楽しむことは、必ずそれぞれの人生を豊かにすることにも繋がっていくと信じています。私自身、これからもたくさんのお出会いを作り深めることで、いつまでも感謝の気持ちを忘れず、人生の一瞬一瞬を楽しんで過ごしたいと思っています。